

スエTの科学の時間

11月21日(金)に『スエTの科学の時間』がありました。今回のテーマは《雲》についてでした。まず、「雲って何からできていると思う?」と聞かれて、「綿菓子!」、他にも綿や糸、クモの巣のイメージがあるようでした。

雲とよく似た現象の『霧』は身近に感じることができます。霧は雨のように濡れるので、水滴を感じることもできます。白く見えるのは細かい水滴が集まっているからです。



霧吹きで噴出した水も白く見えます。



湯沸かしでお湯を沸かすと白い湯気が出ます。噴出してすぐの湯気は白くありませんが、水蒸気が空気で冷やされることで水滴になって、白く見えます。

冬になって、みんなの口から「はぁ〜」と息を吐いたら白くなるのも同じ現象です。

雲は空の高いところ(冷たい、寒いところ)でできます。空気の中の小さなチリがあると水蒸気から細かい水滴になりやすいです。



不思議な現象を見せてもらって、興味津々で見せていました。



ぬらした瓶の中に線香の煙を入れて、ポンプで引く(気圧が低くなる)と、瓶の中に白い雲ができます。



「わぁ白くなった!」とびっくりしていました。

